

雨天等変更あり

踊場		新橋町	諏訪町	新大工町	榎津町	西古川町	賑 町
1	諏訪神社	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30
2	中央公園	8:10	8:40	9:10	9:40	10:10	10:40
3	お 旅 所	9:10	9:40	10:10	10:40	11:10	11:40
終了予定		9:40	10:10	10:40	11:10	11:40	12:10

踊町		新橋町	諏訪町	新大工町	榎津町	西古川町	賑 町
1	諏訪神社	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30
2	中央公園	17:10	17:40	18:10	18:40	19:10	19:40
終了予定		17:40	18:10	18:40	19:10	19:40	20:10

踊町		西古川町	賑 町	新大工町	諏訪町	新橋町	榎津町
1	八坂神社	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30
2	中央公園	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30
終了予定		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00

踊 場		榎津町	新橋町	諏訪町	西古川町	賑 町	新大工町
1	お 旅 所	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30
2	諏訪神社	8:20	8:50	9:20	9:50	10:20	10:50
終了予定		8:50	9:20	9:50	10:20	10:50	11:20



いつの時代も創意工夫を凝らす先駆者でありたい

いつの時代も創意工夫を凝らす先駆者でありたい

●安達(株) 明治39年1906年	●有川 嘉永3年1850年	●株石丸文行堂 明治16年1883年	●株料亭一力 文化10年1813年	●株 入来屋 延享元年1744年	●岩崎蒲鉾(株) 明治35年1902年	●株江崎へ甲店 宝永6年1709年	●株小野原本店 安政6年1859年	●有鍵屋薬品本舗 元禄7年1694年	●株 花月 寛永19年1642年	●川添硝子(株) 文久元年1861年	●株 坂本屋 明治27年1894年	●株 四海楼 明治32年1899年	●株十八親和銀行 明治10年1877年	●株 松翁軒 天和元年1681年	●有 高野屋 延享3年1675年	●株 高橋昌服店 嘉永4年1851年
●リビングかねと 明治38年1905年	●有田中旭榮堂 明治31年1898年	●株タナチヨ 明治27年1894年	●中村倉庫(株) 文化3年1806年	●株 梅月堂 明治27年1894年	●有 梅軒軒 天保元年1830年	●株 福砂屋 寛永元年1624年	●株 フジオカ力 明治32年1899年	●藤村薬品(株) 明治27年1894年	●有古田勝吉商店 明治10年1877年	●株文明堂総本店 明治33年1900年	●本田商會(株) 大正3年1914年	●株安中集栄堂 明治17年1884年	●株 大和屋 貞享3年1686年	●横尾石材工業有 嘉永2年1849年	●有 吉宗 慶応2年1866年	

画不同



長崎しにせ会

踊 場 ご 案 内

〈諏訪町〉
龍踊

長崎

〈西古川町〉 櫓太鼓・本踊

令和7年 10月 ◎雨天等による変更あり

7 8 9

**踊 場
ご案内**

諏訪神社
八坂神社
ホームページ

＜右馬場サレテ運堂委員会 095-821-8596＞

旅 書

所 お旅所さしき運堂委員会 ☎095-823-9073

中央公

園 長崎伝統芸能振興会(長崎商工会議所内) ☎095-822-0111

Q <6.5

检索

長崎伝統芸能振興会(長崎商工会議所内) 095-822-0111

詳しくは、こちらのQRコードをご覧ください



令和7年

長崎

くんち

寛永11年(1634年)から続く
諏訪神社の秋季大祭

◆ 踊町紹介 ◆

長崎くんちとは

長崎の氏神「諏訪神社」の秋季大祭で、毎年10月7日から3日間、長崎の町を挙げて催されます。寛永11年(1634年)に、当時の太夫町(後に丸山町と寄合町になる)の高尾と音羽の兩人が、諏訪神社神前に謡曲「小舞」を奉納したことがはじまりといわれ、長崎ではこの年に「出島」埋築が着工され「眼鏡橋」が架けられています。

踊町とは

奉納踊を出す町のことで7年に一度当番が回ってきます。

傘鉾とは

踊町の行列の先頭に立つ町印のことです。

参考：長崎くんち赤本(呂紅)、「もってこーい」長崎くんち入門百科(長崎文献社)、長崎くんちの栞(長崎伝統芸能振興会) 他

しん ばし まち
新橋町 本踊 阿蘭陀万歳

「阿蘭陀万歳」は、花柳流の長唄舞踊で、昭和8年に創作発表された翌年に町検番に伝わったとされている。新橋町は、昭和26年の奉納踊で初めて披露し、主人公である2人のオランダさん(万歳・才蔵)と芸者による軽妙な掛け合い、賑やかな演出が見ものとなっている。傘鉾は、朱塗りの花台に鹿の香炉、於多福(おたふく)の香合を配し、霊芝の盆栽を置くことで、福祿寿を表している。



えのき づ まち
榎津町 かわふね川船

長崎くんちにおいて、「川船」は現在、数多くの町が奉納しているが、榎津町の船は昭和26年に新調されたもので、現存する「川船」の中では最も古い。船頭による網打ちに続き、波を表す根曳衆が前進後退から、船を止めることなく豪快に曳き回す様は圧巻の一言。傘鉾の飾は、「川船」に合わせて八つ脚の台に鯛双匹を置き、垂は三社紋を配した亀甲を用いて、流鏝馬装束による勇壮な走馬模様を表している。



す わ の まち
諏訪町 龍踊

諏訪神社が最初に祀られた地であることが町名の由来であり、諏訪神社の使いが白蛇であるため、諏訪町は「龍踊」を奉納踊としている。龍の動きを止めずに龍方(担ぎ手)が一斉に交代する「棒交代」、また、青龍・白龍が勇猛に踊場を舞い踊る様子や子龍・孫龍もあり、観衆を大いに沸かせる。傘鉾の飾には、梶の葉に町名、垂には緋の塩瀬羽二重に諏訪湖を渡る白狐と氷裂が描かれ、市の有形文化財に指定されている。



にし ふる かわ まち
西古川町 やぐらだいこ ほんおどり
櫓太鼓・本踊

江戸時代本場所五場所中 九州で唯一の場所だった長崎。長崎の相撲は、西古川町に在住した初代横綱格の明石志賀之助(あかししがのすけ)に始まり、1717年に奉行より勧進元の命を同町が受けた歴史がある。古くは、1695年に長崎くんちへ初参加し、子供相撲を奉納していた。1821年には櫓太鼓を奉納し、相撲関連の奉納は351年目を迎える。本年の奉納は、相撲にちなんだ紅之輪の傘鉾(大軍配、重藤(しげどう)の弓等)、口上、甚句、弓取り、櫓太鼓(本櫓)、本踊。



しん だい く まち
新大工町 し ぶ ひきだんじり
詩舞・曳壇尻

かつて多数の町が奉納していた「曳壇尻」の伝統を守る唯一の町である新大工町。袴姿の舞人が漢詩の吟詠、和歌の朗詠にあわせて扇を使って舞う「詩舞」と、大工職の粋を集めた檜造りの壇尻を豪快に曳き回す「曳壇尻」を奉納。「曳壇尻」の飾は、紅葉・松に鳥居と雌雄一対の白鹿、屋根には大工職人尽しの彫刻があり、傘鉾とともに奈良の春日大社の情景を表している。傘鉾は、蜋引きの紅葉に金色の春日燈籠を配し、陽光に煌めく飾である。



にぎわい まち
賑町 たいりょうまいわいえ び すぶね
大漁万祝恵美須船

長崎くんちの踊り場の1つである中央公園を町内にもつ賑町。長さ5.3m、重さ4tと奉納される曳物の中でも最大級の親船「恵美須船」が、子舟「宝恵舟」・「豊来舟」とともに船団を組み、大漁を祝って踊り場狭しと曳き回される。船には大籠や錨、ビードロ細工の漁網が載せられている。傘鉾の飾は、町内に祀られている恵美須社の神話(海彦・山彦)に因む満珠をビードロでつくり、八足・八稜境を象る置台の上に配している。

